

入新井特別出張所管内の人口
令和5年1月1日現在

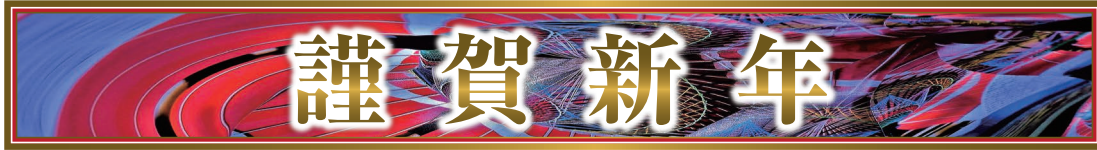
世帯数	23,526	(-12)
男	20,810	(-49)
女	20,347	(-4)
計	41,157	(-53)

()内は9月1日比

わがまち いりあらい

発行：地域力推進
入新井地区委員会
編集事務局：入新井特別出張所
〒143-0016 大田区大森北1-10-14
TEL 3761-5303

(年3回1月, 5月, 9月発行)



新年にあたり情報紙への思い「東京23区内唯一全地区(18地区)で発行」

昨年12月3日・4日に大田区産業プラザPiOで「第5回全国地域おこし名人・達人サミット in おおた」が開催されました。地域おこしとは、全国喫緊の課題である地域力推進のための取り組みです。松原 忠義区長、新井宿地区自治会連合会会長鈴木 英明氏などが出席され、「希望ある未来づくりに向けて」の討議が行われました。

その中で、大田区内18地区の地域情報紙を読み解く講演会に参加し、聴講しました。専門家の方が、過去一年間発行の全ての記事を読み、内容分析を行い、問題意識・提案に落とし込んだ説明をされました。講評の中で、入新井地区の情報紙は、方針「風薫る歴史と文化の街」に対して、「地域力推進入新井地区委員会」の中に組織として「歴史分科会」を発足させ、実績を積み重ね、展示発表をしている点は範となる等の紹介がなされました。今年こそ、平穏な日々が戻ると信じ編集委員一同入新井の話題をお届け致します。本年も編集部にご期待ください。
(編集委員長 田尻 稔・編集長 岡村 篤)



山王台地で日本一のハチミツを作る

今や、人類にとってハチミツの無い食生活は考えられません。ビタミンやミネラルなど豊富な栄養素を含み、パンや紅茶に、高級菓子に、料理にと砂糖の代わりにも沢山使われています。銀座のビルの屋上で養蜂を始めたというニュースが伝えられたのは何年前だったのでしょうか。何と、我が入新井地区にもありました。ある文化活動を通じて養蜂に取り組んで居られる方と出会いました。それは雨宮 裕彦氏です。絶滅危惧種に近いと思われる野生のニホンミツバチが作るハチミツで日本一に輝いた方です。山王の自宅ベランダで養蜂を始められ、現在は生産拠点を調布市にも展開されています。この「わがまちいりあらい」編集会議で取り上げようと決まり、事務局の支援を戴きながらご本人にインタビューしてこの記事を作成しました。

今回は調布市の生産拠点にお邪魔しました。

(編集委員 横山 善朗)

ハチミツは

世界全体の生産量は推定120万トン。日本のハチミツ需要は年間5万トン。国内生産は7%。(セイヨウミツバチのハチミツ6%、ニホンミツバチのハチミツ1%程度) 純粋なハチミツは高価であり、流通している60%以上は加糖ハチミツです。因みに純粋なニホンミツバチのハチミツは160グラム入りで1万8千円とか。



雨宮氏が養蜂を始めたのは

10数年前、鶉の木在住の友人の影響から、標高約20mの台地だったらやれるかな?と長野県の養蜂家からニホンミツバチの一群を譲り受け、3年ほど経って目途が付いたとのこと。趣味で始めた養蜂。家族や友人に差し上げて楽しんでいらっやいます。

蜂やハチミツの性質に関して

- 働き蜂は生まれたころは掃除・育児を行います。日齢によって役割が変化し、次第に巣作り・貯蜜・採蜜を担うようになります。働き蜂は1か月程度しか生きられません。働き蜂の中には、ほとんど働かない個体も存在します。そのような蜂が、天敵(オオスズメバチ・キロスズメバチ)が現れた緊急時には大活躍します。
- オスは女王蜂と交尾をするためだけに生まれます。(分蜂の時期のみ)交尾が終わると餌を貰えなくなり、オス蜂は死滅します。そのため冬場はメスの女王蜂と働き蜂しか存在しません。



- 女王蜂も働き蜂も卵の区別はありません。しかし、女王蜂は王台と呼ばれる大きめの部屋で孵化したのち、ローヤルゼリーを与えられるため、大きい体へと成長します。これにより働き蜂との間に区別が生まれるのです。
- 働き蜂は巣へ戻ると、若い働き蜂に集めてきた蜜を渡します。その過程でミツバチの体内の酵素が加わり、甘くなっていきます。しかし、その時点ではまだ蜜は薄いため、巣内で羽をはたいて水分を飛ばします。こうすることによって濃密なハチミツが作られていきます。また、羽を動かすことによって、巣内の冷却・保温の効果も生み出します。

巣箱の位置・立地について

- 巣箱は調布市・深大寺近くの個人宅にあります。
- 深大寺を養蜂場として選んだ理由は、たまたま頼まれた土地が深大寺で、「蕎麦が美味しく素敵な場所だから」だそうです。
- 巣箱の周りには、白菜・里芋・柿・ゆず・レモン等、様々な植物が植えられた畑が存在します。木の下は夏場に陰になるため、木の根元付近に巣箱を設置しています。
- 巣箱は杉板製で1段につき高さ18cm×幅30cm×厚さ2.4cmの重箱型です。セイヨウミツバチの巣箱も試してみましたが、居着きが悪いか、あまり相性が良くなく、現在の巣箱の形になったとのこと。自分の仕事は「居心地の良い巣箱を用意してあげる」と雨宮氏は仰います。



読者の皆様へ一言

「春になったら、私のミツバチがお邪魔するかもしれませんが、よろしくお願ひします。」

(編集長 岡村 篤・編集委員 横山 善朗・編集委員 田部 隆幸)
(事務局 田添 千晴)

祝 入新井第五小学校 開校90周年

特別寄稿 入新井第五小学校校長 岡野 範嗣

本校は、昭和7年9月2日に入新井第一小学校から分かれ、大田区で最も古い学校の一つ「警井小学校」の跡地に産声を上げました。その間、90年という長い時代の変遷と共に歩んできた本校の教育は、大きな戦争や変化著しい社会情勢、様々な教育改革等の流れに適応しながら、幾多の苦難を乗り越え、現在の素晴らしい校風を造り上げてきました。開校90周年を迎えるにあたり、それぞれの時代において理想の教育の実現のために努力してこられた校長先生をはじめ教職員の皆様、また本校を陰から支えていただきました、地域・歴代PTA・保護者の皆様、7,987名を数える卒業生の皆様方に、深く敬意を表したいと思います。

さて、過去の学校や地域の歴史を紐解きますと、この辺りの歴史の長さ・深さに驚かされます。旧東海道の傍ということもあり、入新井地区の五番目の学校にもかかわらず90年の歴史をもつ訳ですから、本校の存在に誇りをもたずにはられません。私自身もこの機に多くのことを学ばせていただきました。

ぜひ、本校に通う児童にも、学校の歴史や自らの住む町の歴史を知らせ、地域の次の担い手として大森の町に誇りをもち、胸を張って生きていってほしいと願っているところです。



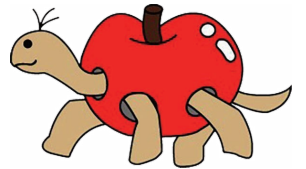
令和5年1月21日(土)には、90周年記念式典および祝賀会を本校で開催する予定です。皆様方に感謝の気持ちが伝わりますよう、PTA・教職員・在校生一同、心を込めて準備をしております。(12月記事受領時の情報です。変更の場合もごさいます。)



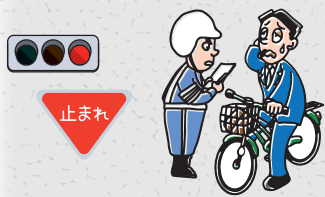
1年生から5年生を支えている6年生のお兄さん・お姉さん

ご存じですか？

右のイラストは、平成24年度、開校80周年を記念し、児童会によって誕生したマスコットキャラクター「アップルタートル」です。カメの姿をしたリンゴには理由があります。カメには、一步一步と着実に前進するという意味があります。それにリンゴの「いりご」「いりご」「いりんご?」・・・という、子どもたちの言葉遊びが加わって名付けられました。今でも入五小の子どもたちから愛され続けているキャラクターです。(上部写真の屋上にあり)

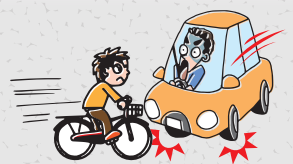


(編集委員 松澤 奈美)



自転車の違法運転に、取締り強化

～自転車事故の多様化に伴う安全運転への心得～



【世界一の交通安全都市 TOKYOを目指して】

大森警察署交通課長 小楠 英之

当署管内で発生している交通事故のうち、半数以上が自転車関与の事故です。

自転車は手軽に利用できる反面、交通事故の際には、重大なものに発展する場合があります。自転車に乗る時には、交通ルールを守り、正しい交通マナーを実践しましょう。



また、夜間や日没前後の薄暮時間帯は、歩行者や自転車にドライバーが気付いていない場合があります。ドライバーから見やすいように、明るく目立つ色の服装にしたり、反射材を身につけるなどして、自分の身を守りましょう。

交通課では、学校、町内会、自治会、子ども会等の団体を対象とした交通安全教室を開催しています。交通事故を一件でも減らすため、交通安全教室を是非ご利用ください。少人数でもお気軽にお問い合わせください。



連絡先：03-3762-0110

大森警察署交通課(交通総務係)

歩行者・車両と自転車同士の交通事故が多発しています。

- 自転車が車道走行中に赤信号を無視し、横断歩道の青信号に突入して歩行者と接触する事故が発生しています。
- 自転車のヘルメット着用が「努力義務化」されます。同乗する幼児のヘルメット着用は進んでいますが、運転の保護者も頭部保護のため着用しましょう。



(東京都では、自転車事故死亡者の77.8%が頭部に重大な損傷を負っています。〈昨年〉)

自転車はルールを守って正しく乗りましょう

(編集委員 太田 康久)

編集後記

12月にイベント「第5回全国地域おこし名人・達人サミット in おおた」が開催されました。18地区の地域情報紙の活動報告や展示などで盛会を極め、中でも「わがまちいらい」が特に高い評価を受け、意を強くした次第です。偶然にも、この地域おこしに関連した話題として、山王での養蜂のお話が舞い込み、早速、養蜂家の雨宮氏を訪ね、調布の採集所にもお邪魔して、いろいろと甘いお話を伺いました。最後に一寸辛いお話。今では日常の移動手段として自転車は欠かせません。しかし事故は相変わらず、むしろ増加傾向に有り。警察はしびれを切らし、レッドカードをちらつかせ牽制。なんとかならないものか。

(編集長 岡村 篤)

表彰

令和4年度大田区青少年対策地区委員会永年功労者表彰

渡邊 雅明 (入一西)

